

看護実践能力育成のための看護技術項目の再検討

A Study of the Educational Contents which Improves Nursing Practice Abilities
of Students for Fundamental Nursing Skill

桶河 華代¹⁾*, 中島 真由美¹⁾, 間 文彦¹⁾

Kayo Okegawa, Mayumi Nakajima, Fumihiko Hazama

キーワード 看護実践能力, 看護技術項目

Key Words fundamental nursing skill, nursing practice abilities

抄 録

目的 開学から9年目を迎える本学部において、看護実践能力の高い学生を育成するために必要だと考えられる看護技術項目の再検討を行うことを目的とする。

方法 技術項目検討委員会を中心に各看護学領域で確認しながら、学生の看護実践能力育成に向けた本学部独自の看護技術項目を再検討し表を作成する。

結果 本学の教員が、学生の看護実践能力育成に向けた看護技術項目は、開学当初の19の大項目、131の中項目、160の小項目を検討した結果、項目の内容を変更し、19の大項目、131の中項目、159の小項目に変更となった。

考察 看護実践能力育成に向けた看護技術項目を再検討して、各専門領域がどの看護技術の修得を考えているのか、漏れがないためにはどの領域で教授すればよいのか、共通認識がもてた。また、最近の学会の動向も含めた看護技術項目にすると共に、全専門領域が共通の認識を持つことで、学生の看護実践能力育成に向けた教育の一助となったと考える。

1) 聖泉大学看護学部看護学科 School of Nursing, Seisen University

* E-Mail okegaw-k@seisen.ac.jp

I. はじめに

看護系大学(学部等)は、1991年には11校であったが、2018年4月には266校(278課程)となり、わずか30年の間に、その数は25倍となった。そのために看護学教育において、卒業時にどのような知識や技術を身につけておくべきか、文部科学省や厚生労働省でも検討会が重ねられてきた。文部科学省(2002)は、「看護学教育の在り方に関する検討会報告書」として「看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標」を提示した。日本看護系大学協議会(2010)は、「看護系大学におけるモデル・コア・カリキュラム導入に関する調査研究」を実施し、「学士課程においてコアとなる看護実践能力」として、5群20項目からなる看護実践能力を報告している。

本学は、2011年に滋賀県下では3番目の看護系大学として看護学部を開設した。開学年度には、各看護学領域代表者で技術項目検討委員会を立ち上げ、卒業時に身につけてほしいと思える看護技術として本学独自で19の大項目、131の中項目、160の小項目を作成し、講義、演習、実習のどこで教授するのか表にまとめた(桶河ら、2012)。また、看護実践能力に関しては、日本看護系大学協議会(2010)が作成した5群20項目に、どの看護学領域で主に教授するのか示した。これらの取り組みにより、本学では学生が看護実践能力を身につけるための看護技術項目を開学当初より検討し、全教員で共通認識を行っていた。

本学における看護技術の経験に関する報告では、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱの実習における学生の看護技術の経験を調査したものがあつた。基礎看護学実習Ⅰでは11項目、基礎看護学実習Ⅱでは23項目を経験し、【環境調整技術】と【症状・生体機能管理】が多く経験できていた(井上ら、2014)。また、在宅看護学領域(訪問看護ステーション実習)でも看護技術の体験内容を調査し、バイタルサイン測定等の【症状・生体機能管理技術】、【排泄援助技術】、【清潔・衣生活援助技術】、【創傷管理技術】、認知症等の【健康生活維持に関する対応技術】、【活動・休息援助技術】、【呼吸・循環を整える技術】が多く経験できていた(桶河ら、2017)。どちらの調査も学生の体験割合が低い看護技術をどうするか、学内演習をどの看護技術にするのか、他の領域と調整する必要性などが課題

として報告されている(井上ら、2014;桶河ら、2017)。

近年の高齢者人口の増大を背景に、地域や在宅での医療・看護のニーズが高まり、多様なヘルスケアニーズに対応できる看護専門職の育成が看護教育において喫緊の課題となっている。日本看護系大学協議会(2011)でも「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告」の「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標(5群20の看護実践能力)」を発展的に改良し、2018年6月「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時の到達目標」として発表している。そこで、本学でも開学から9年目を迎える今、看護実践能力の高い学生を育成するために必要だと考えられる看護技術項目を再検討し、主に教授する専門領域はどこか、全ての専門領域で共通認識を行ったので報告する。

II. 研究方法

技術項目検討委員会の委員3名(精神看護学領域、成人看護学領域、在宅看護学領域)を中心に、本学で看護実践能力の高い学生を育成するために必要だと考えられる看護技術項目と学修領域の再検討を以下のように行った(表1)。本学における専門領域は、基礎看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、小児看護学、母性看護学、地域看護学、在宅看護学の8領域である。

III. 結果

本学の教員が看護実践能力の高い学生を育成するために必要だと考えられる看護技術項目(19の大項目、131の中項目、160の小項目)を再検討した結果、19の大項目、131の中項目、159の小項目となった(表2)。表2での“○”はその内容・方法について主に学習する、“△”は、その内容・方法について学習することが望ましいとした。最終的に項目数はほとんど変わらないが、小項目の内容にいくつか変更を加えた。以下、詳細について大項目を【】、中項目を<>、小項目を<>で表す。

1. 大項目

看護技術項目の大項目について、19の大項目は、

表 1 技術項目検討委員会における検討過程

平成 30 年度 開催日	検 討 事 項
第 1 回 7 月	看護技術項目の表は、看護学部の開学当初に作成されたままであり、この表を利用している領域もあれば利用していない専門領域もある。 学生が看護実践能力を身につけるための看護技術項目を以下の内容を考えながら再検討を行うこととした。 ・看護技術項目表をどのように活用していくのか ・各項目がシラバスに反映されているのか ・卒業時到達目標をどこにするのか
第 2 回 9 月	2012 年作成の看護技術項目の表（19 の大項目、131 の中項目、160 の小項目）をメールで添付し、以下の内容を全教員の会議にて説明を行い、各専門領域で検討した。 ・学生が看護実践能力を身につけるための看護技術項目の見直し ・担当領域の区分（講義・演習・実習のどこで教授するか）
第 3 回 1 月	各領域で見直した看護技術項目の表を委員会が取りまとめた。 ・母性看護学領域は変更がなかった。 ・地域看護学領域は、新たに主に教授する看護技術項目の変更はなかった。 ・母性看護学領域、地域看護学領域以外の専門領域は、追加・削除する看護技術項目があった。
第 4 回 3 月	12 月末日に各領域で見直した看護技術項目の表を委員会が取りまとめて、看護技術項目は適しているか、もれはないか、不要なものはないか、委員会で検討を重ねた。養護教諭養成課程が完成年度（2015 年度）を迎えて終了したことに伴い、関連する項目も含めてさらに検討を行った。 ・最終的に看護技術項目と学修領域の表を作成した（表 2） ・全教員が集まる全体会議で説明し、表 2 を教員全員にメールで配信し、全専門領域で確認作業を行い、共通認識を行った。

【環境調整技術】【症状・生体機能管理（観察）技術】【食事援助技術】【排泄援助技術】【活動・休息援助技術】【清潔・衣生活援助技術】【安楽確保の技術】【呼吸・循環を整える技術】【創傷管理技術】【生体機能管理（援助）技術】【与薬の技術】【感染予防の技術】【救急蘇生技術】【安全管理の技術】【入院退院時に関わる対応技術】【人の誕生・育成課程に関わる援助技術】で内容、順序に変更はなかった。

2. 中項目・小項目

中項目、小項目の変更は以下 4 点であった。

1) 【症状・生体機能管理（観察）技術】

【症状・生体機能管理（観察）技術】において、〈バイタルサイン測定〉を教科書で確認すると、意識、脈拍、呼吸、体温、血圧である。一方で、〈CVP 測定〉の適応となるのは、「持続的に循環動態・循環血液量の変化の観察が必要な場合、侵襲の大きな手術・検査後の患者、循環動態に影響のある薬物投与中の患者、心機能の持続的なモニタリングが必要な患者」である（藤崎ら、

表2 技術項目と担当領域の区分 (講義・演習・実習)

○: その内容・方法について主に学習する
 △: その内容・方法について学習することが望ましい

大項目	中項目	小項目	基礎		成人		老年		精神		小児		母性		地域		在宅		備考欄	
			講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義		演習
環境調整技術	療養生活環境調整	温度・湿度・換気・採光・臭気・騒音	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	△	△	△	△	○	
		安全性	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	△	△	△	△	○	
		快適性	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	△	△	△	△	○		
	ベッドメイキング(シーツ交換を含む)	一般のベッド(児)	○	○	○	○	△	○	○									△		
		手術後のベッドの準備				○	○	○												
		シーツ交換																		
	ドレーン類が留置されている患者	点滴ラインや中心静脈ラインがある患者	○	△	△	○	○	△												
		活動制限がある患者	○	○	△	△	△	△	○	△	△	△								
		クリーンルーム入室中の患者				○	△													
		バイタルサインの測定																		
	症状・生体機能管理(観察)	体温・脈拍・呼吸・血圧・意識・心音(成人・老人)	体温(直腸)・脈拍(心拍)・呼吸・血圧・意識(新生児)	○	○	○	○	○	△	○	△	○			○		△	○	○	
			体温・脈拍(心拍)・呼吸・血圧・意識(乳幼児)									○	○	○			△		△	
			体温・脈拍・呼吸・血圧・意識(学童)									○	○	○			△		△	
			身体計測																	
		体重・身長(成人・老人)	体重・身長・頭囲・胸囲・腹囲・大泉門(新生児)													○	○	○	○	○
体重・身長・頭囲・胸囲(乳幼児)												○	○	○				△		
体重・身長(学童)												○	○	○				△		
呼吸音聴取			○	○	○	○	○	○		△	○	○	○	△	△	△		○	○	
腸蠕動音聴取		○	○	○	○	○	○		△	△	△	○					○	○		
腹囲測定		○	○	△	△						○	○	○	○	△		△			
CVP測定					○	△														
モニタ装着中の患者(児)の観察		心電図モニタ	△	△	△	○	△	○	△	△										
		経皮的動脈血酸素飽和度(SpO2)	△	△	△	○	○	○	○	△	○	○	○	△	△			○	○	
		ペースメーカー装着中の観察				○	△	△												

大項目	中項目	小項目	基礎		成人		老年		精神		小児		母性		地域		在宅		備考欄		
			講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義		演習	実習
食事援助技術	食事援助技術	配膳	○	○	○	○			△	△	○										
		食事介助	臥床患者	○	○	○	△	○	○									△	△		
			片麻痺のある患者	○	○		△	○	○									△	△		
			嚥下障害がある患者	○	○	△	○	○	△	△								△	△		
		経管栄養	○					△			○	○	○				△	△			
		中心静脈栄養	○	○	○	△	△										△	△			
		誤嚥予防	○	○	○	△	○	○	○							△	△	△			
		栄養状態の査定	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	△			△	△			
		水分バランスの査定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△			△	△			
		食生活支援	栄養指導	○	○	○	○	○	○	○				○	△	○	○	△	△		
			食事の工夫	○	○	○	△	○	○	○				○	△	○	○	△	△		
			家族指導				○	○	○	○	△	△					○	○	△	△	
			自然排尿・排便援助																		
		排泄援助技術	排泄援助技術	トイレ	○	○	○	△	○	△											△
				身障者トイレ	○	○	△	○	△												
ポータブルトイレ	○				△	○	△														
便器の使い方	○			○	○	△	○	△													
尿器の使い方	○			○	○	△	○														
排便	○				△	△												○	○	△	
オムツ交換	○			○		△	○	○	△	○	○	○					△	○	○	△	
失禁ケア	○			○	○	△	○	○	○	△								△	△		
膀胱内留置カテーテル法	○			○	△	△												△	△		
浣腸	○			○	○	△				△								△	△		
導尿	○			○	○	△				△								△	△		
排尿困難時の援助	○					△				△								△	△		
ストーマ造設患者のケア						○	○	△	△									△	△		

大項目	中項目	小項目	基礎		成人		老年		精神		小児		母性		地域		在宅		備考欄	
			講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義		演習
活動・ 休息 援助 技術		歩行介助			○	△	○	○	○	○	○							△		
		杖歩行介助																		
		松葉杖			○	△													△	
		ステッキ			○	△	○	○	○		△								△	
		歩行器介助			○	△	○	○	○		△								△	
		移乗・移動の介助																		
		ベッド⇄車椅子			○	○	○		△	○	○	○	△					△	△	
		車椅子、ベッド⇄便座、ポータブル便器			○	○	○		△	○	○	○	○	△					△	
		移送																		
		車椅子			○	○	○		○	○	○	○	△		△				△	△
		ストレッチャー			○	○	○	○		○		△		△						
		関節可動域の観察・訓練			○		○		△	○	○	○	△						△	△
		廃用性症候群予防			○		△		△	○	○	○	△				○	△	△	△
		適切な固定（拘束・抑制等）			△		○		△	○	○	○	○							
		補装具装着					○		△		△		△							△
		体位変換																		
		点滴ライン・ドレーン類が留置されている患者（児）			○	△			△				△							△
		麻痺がある患者（児）			○	△			△				△							△
		痛みがある患者（児）					○		△				△							△（ターミナルケア論）
		呼吸困難がある患者（児）					○		△				△							△（ターミナルケア論）
活動制限のある患者（児）			○	○	○		△	○	○	○	○	△						△		
入眠・睡眠の援助			○				△	○	△	○	○	○			△	△		保育園実習		
安静の援助（指導を含む）			○		○		△		△	○	○	○						プレバレーション演習		
下肢運動（血栓予防）					○	○	△		△	○	○							△		
アクティビティ（高齢者施設での心身の活性化）								○	○									△		
神経麻痺の観察と予防					○	○	△		△	○	○							△		

大項目	中項目	小項目	基礎		成人		老年		精神		小児		母性		地域		在宅		備考欄		
			講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義		演習	実習
清潔・衣 生活 援助 技術		入浴介助			△		△		○	△	△		○				△	△			
		シャワー浴介助			△		○		○		△		○					△	△	△	
		特殊な状況にある患者（児）の入浴・シャワー浴の介助																			
		創がある患者（児）			△		○		○											△	
		ドレーン類が留置されている患者（児）					○		○												
		麻痺がある患者（児）			△		△		○		○	○							△	△	
		機械浴介助			△		△		○		△										
		部分浴																			
		手浴			○	○	△		○		△		△						△	△	
		足浴			○	○	△		○		△		△						△	△	
		全身清拭			○	○	○		○		△		△		○				△	△	
		部分清拭			○	○	○		○		△		△						△	△	
		陰部ケア（洗浄）			○	○	△		○		○		○	○	△				○	○	○
		洗髪																			
		仰臥位			○	○	○		○		○		○							△	
		座位			○	○	○		○		○									△	
		口腔ケア																			
		安静（臥床）を要する患者（児）			○		○		△		△									△	
		意識状態が不良な患者（児）					○		△		△		△							△	
		嚥下困難がある患者（児）					○		△		○		○		△					△	
絶食中の患者（児）					○		△		△									△			
気管切開や挿管している患者（児）					○		△		△									△			
義歯の手入れ							△		○		○	△						△			
整容（洗面・歯磨き・結髪・ひげ剃り・爪切り）			○				○		○		○	○						△			
寝衣交換など衣生活支援																					
ドレーン類が留置されている患者（児）			○	○	△		○		○									○			
活動制限がある患者（児）			○	○	△		○		○		○							○	△		

大項目	中項目	小項目	基礎		成人		老年		精神		小児		母性		地域		在宅		備考欄			
			講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義		演習	実習	
安楽確保の技術		体位保持	○	○	○			○	○													
		温電法																				
		温枕	○	○				△														
		電気毛布・電気アンカ	○		○																	
		特殊な温電法							△	△							○	△				
		熱傷予防	○	○				○											△			
		冷電法																				
		氷枕	○	○			△		△	△	△									△		
		氷頭	○					△														
		氷嚢	○					△														
		特殊な冷電法																○	△			
		リラクゼーション																				
		指圧	○	○					△												△	
		マッサージ	○					△	△	△				○	△					△		
		補完・代替療法	○		○	△			△	○	○									△	(ターミナルケア論)	
呼吸・循環を整える技術		酸素吸入																				
		酸素マスク	○	○	○	○	△		○						△			△	△			
		インスピロン	○			○		△														
		酸素カニューラ	○	○	○	○	△		○		△				△			○	△			
		酸素アtent	○			○		△														
		人工呼吸器				○		△												○	△	
		酸素ボンベの操作	○	○				△	△											○	△	
		在宅酸素療法 (HOT)						△	△											○	△	
		吸引																				
		口腔内・鼻腔	○	○				△	○	△		△							○	○	△	
		気管切開口				○		△												○	○	△
		ネブライザー																				
		喉頭ネブライザー	○	○		△	△															△
		超音波ネブライザー	○	○		△	△					△	○	○	○							△

大項目	中項目	小項目	基礎		成人		老年		精神		小児		母性		地域		在宅		備考欄			
			講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義		演習	実習	
呼吸・循環を整える技術		体位ドレナージ				○	△											△	△			
		スクイーミング				○	△											△	△			
		呼吸訓練																				
		腹式呼吸				○	○	△	△	△										○	△	
		口すぼめ呼吸				○	○	△	△	△										○	△	
創傷管理技術		呼吸・吸気練習 (トリプロローII・風船)				○	○	△														
		体温調整	○	○				△		△	○	○			△				○	△		
		包帯法	○	○				△														
		創傷処置	○	○	○		△				○	○			△				○	△		
		褥瘡予防ケア				○		△	○	○	○	○	△						○	○	○	
		PEGを用いた経腸栄養						△		△									○	○	△	
		中心静脈カテーテルの刺入部				○		△											△	△		
		気管切開口				○		△											△	△		
		ドレーンの種類とドレナージ方法																				
		短い開放式ドレーン				○	○	△														
		閉鎖式ドレーン				○	○	△														
		胸腔ドレーンとデイスポーザブル低圧持続吸引器				○	○	△														
		頭蓋内圧ドレナージ				○		△														
		生体機能管理(援助)技術		検体の採取と扱い方																		
				採血	○	○				△												
採尿・尿検査	○							△				○	○									
採便・便検査	○							△														
喀痰	○							△														
検査時の援助																						
血糖測定						○	○	△		△	○	△							△	△		
スパイロメーターの使用						○		△													疾病・障害論 I II	
胃カメラ						○		△													疾病・障害論 I II	
気管支鏡						○		△													疾病・障害論 I II	
腰椎穿刺						○		△					○	○		○	△				疾病・障害論 I II	
骨髄穿刺						△		△					○	○							疾病・障害論 I II	
腹腔穿刺						○		△													疾病・障害論 I II	
X線撮影						○		△													疾病・障害論 I II	
血管造影						○		△													疾病・障害論 I II	
CT				○		△				○									疾病・障害論 I II			
MR I				○		△				○									疾病・障害論 I II			

大項目	中項目	小項目	基礎		成人		老年		精神		小児		母性		地域		在宅		備考欄		
			講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義		演習	実習
与薬の技術		与薬方法(説明・指導を含む)																			
		経口薬(舌下錠を含む)	○		△	○	○	○	○									△	△		
		軟膏薬	○		△		○		△										△		
		スプレー薬	○		△														△		
		貼付薬	○		△		○		△										△		
		点眼薬	○		△	○	○		△										△		
		点鼻薬	○		△															△	
		点耳薬	○		△															△	
		吸入薬	○		△							△	○							△	
		座薬	○		△							○							△	△	
		皮下注射	○	○			△														
		皮内注射	○				△														
		筋肉内注射	○	○			△			○	△										
		静脈内注射	○				△			○	△										
		点滴静脈内注射の管理(輸液ポンプを含む)	○	○		△	△	△		○	△	○	○			△					△
		中心静脈内注射の管理					○	△													△
		硬膜外注射の管理					○	○	△												
		輸血の管理	○			○	○	△													
		自己注射の方法と指導					○	△				△									△
		抗生物質を投与されている患者の観察					○	△		△	△										
		薬品管理																			
		水薬・坐薬	○				△			○	○										△ 薬理学
		麻薬	○		○	△					○										△ 薬理学
		劇薬	○		○	△					○										薬理学
		毒薬	○		○	△					○										薬理学
		血液製剤				○	△														薬理学
		向精神薬									○	○	○								△ 薬理学
		特殊薬(抗がん剤等)				○	△														薬理学(ターミナルケア論)

大項目	中項目	小項目	基礎		成人		老年		精神		小児		母性		地域		在宅		備考欄	
			講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義	演習	実習	講義		演習
感染予防の技術		スタンダードプリコーション(標準予防策)	○	○	○	○	○		○	△	○			○		△	△	△		
		洗浄	○				△											△	△	△
		消毒	○		○	△												△	△	△
		滅菌	○		○	△														
		無菌操作	○	○	○	△														
		針刺し事故防止の対策	○	○	○	○	△													△
		針刺し事故後の感染防止	○		○	△														△
		医療廃棄物管理	○	○	△	○	○		△											△ △
		無菌室(クリーンルーム)の清潔操作				○	△													
		隔離				○	△													
救急蘇生技術		一次的救命処置: BLS (Basic Life Support)																		
		A: airway (頭部後屈法・下顎挙上法)				○	○		△	△				○	○					
		B: breathing (バグバルブマスク)				○	○		△	△										
		C: circulation (胸骨圧迫心マッサージ・ショック体位・止血法)				○	○		△	△										
		二次的救命処置: ACLS (Advanced Cardiac Life Support)																		
		A: airway (エアウェイ挿入・気管挿管)				○			△	△										
		B: breathing (人工呼吸器)				○	○		△	△										
		C: circulation (胸骨圧迫心マッサージ・器具による心マッサージ)				○			△	△										
		D: drugs and I.V. lines (静脈確保と救急薬品使用)				○			△	△										
		E: electrocardiography (心電図)				○			△	△										
F: fibrillation treatment (体外式徐細動)				○	○		△	△												
G: gauge (各種パラメータの評価)				○			△	△												
安全管理技術		インシデント・アクシデント(転倒・転落・外傷予防等)に関わる対応	○		○	○		○	○				○	○			△	△		
		問題行動(暴言・暴力・虐待等)に関わる対応								○	○						△	△	△	
		災害(火災・地震等)に関わる対応				○	○		△	△							△	△	△	
入院退院時の対応技術		入院にあつての患者・家族への対応			○	△		○	△				○							
		入院時オリエンテーション			○	△		△	△		△			○						
		退院後の生活指導			△	○	○	○		○	○			○		○	△	○	○	
		在宅での看護・介護指導			△		△	△	○		△								○	○
社会資源の活用と調整			△	○	△	△	○	○	○	○				○	○	○	○	○		

大項目 中項目 小項目	基礎	成人	老年	精神	小児	母性	地域	在宅	備考欄
	講義 演習 実習 講義 演習 実習	講義 演習 実習 講義 演習 実習	講義 演習 実習 講義 演習 実習	講義 演習 実習 講義 演習 実習	講義 演習 実習 講義 演習 実習	講義 演習 実習 講義 演習 実習	講義 演習 実習 講義 演習 実習	講義 演習 実習 講義 演習 実習	
受胎調節指導						○ ○ △			
新生児家庭訪問指導						○ ○ ○ ○ ○			
人の誕生・育成過程に関わる援助技術						○ ○			
妊婦計測						○ ○			
乳房マッサージ						○ ○			
悪露交換						○ ○			
授乳・調乳指導						○ ○ ○ ○ ○			
離乳食の援助					○		○ ○ ○		
愛着形成への援助					○	○	△ ○ △ ○		
発達課題の取り組みへの援助				○	○ ○ ○ ○ ○		△ ○ △ ○		
障害（身体・発達障害等）を持つ子どもへの援助					○ ○		○ ○	△	
基本的な生活習慣形成					○ ○ ○		△ ○ △ ○		
小児期の遊びの援助					○ ○ ○		○ ○	△	
抱っこ					○ ○ △ ○		○ ○ ○ ○		
親の役割獲得への援助					○	○	△ ○ △ ○	△	
人の死の援助技術に関わる		○	△ ○ △		○		△	○ △	
死を迎える人への援助		○	△				△	○ △	
臨終を迎える人の家族への援助		○						○	
死後の遺体への対応		○						○	
診断技術									
妊娠期の診断技術と対応						○ ○			
分娩期の診断技術と対応						○ ○			
産褥期の診断技術と対応						○ ○ ○ △			
新生児の診断と観察法						○ ○ ○ △			
未熟児の診断と観察法						○ △ △			
異常新生児の診断と観察法						○ △			
乳房の診断と対応						○ ○ △			
分娩介助技術									
正常分娩過程の介助						○			
出生直後の新生児の看護						○ ○ ○			

大項目 中項目 小項目	基礎	成人	老年	精神	小児	母性	地域	在宅	備考欄
	講義 演習 実習 講義 演習 実習	講義 演習 実習 講義 演習 実習	講義 演習 実習 講義 演習 実習	講義 演習 実習 講義 演習 実習	講義 演習 実習 講義 演習 実習	講義 演習 実習 講義 演習 実習	講義 演習 実習 講義 演習 実習	講義 演習 実習 講義 演習 実習	
異常分娩時の補助									
異常出血への救急処置						○			
胎児・胎盤娩出時および後の処置						○ △			
保健指導（ハイリスク妊産婦の保健指導含む）						○ ○			
記録・報告									
助産記録						○ ○			
分娩監視装置解読						○ ○			
保育器						○ ○			
精神症状や状態への対処									
幻覚妄想				○ ○ ○			△	△ △	
抑うつ状態				○ ○ ○		△	△	△ △	
躁状態				○ ○ ○			△	△ △	
衝動行為				○ ○ ○					
混迷状態				○ ○ △					
認知症			△ ○ ○ ○ ○ ○ △ △				△	△ △	
せん妄		○	△ ○ ○ ○ ○ △ ○				△	△ △	
不安状態			○ ○ ○ ○ ○				△		
ひきこもり状態				○ ○ ○			△		
拒否（拒食・拒薬）				○ ○ ○			△		
攻撃的行為		○	○ ○ ○ ○ ○						
強迫行為				○ ○ ○					
操作・試し行為				○ ○ ○					
自傷・自殺念慮				○ ○ ○					
地域における健康問題に対する対応									
地区診断							○ ○ ○		
地域における保健計画立案・評価							○ ○ ○		
学童の健康管理					○		△ △		
労働環境のアセスメント							○ ○ ○		
セルフ・ヘルプグループの育成と支援				○			○ ○ ○		

1968). そのため、〈CVP測定〉を〈体温・脈拍・呼吸・血圧・意識・心音(成人・老人)〉と分け、体験する看護技術とした。

2) 【清潔・衣生活援助技術】

【清潔・衣生活援助技術】においては、〈部分浴〉の〈臀部浴〉の小項目は、各専門領域の看護技術の教科書を見直し、関連する記述が見当たらないことから省くこととした。〈特殊な状況にある患者(児)の入浴・シャワー浴の介助〉の〈創やドレーン類が留置されている患者(児)〉の小項目を、〈創がある患者(児)〉、〈ドレーン類が留置されている患者(児)〉というように創とドレーン類を別の小項目とした。

3) 【安楽確保の技術】

【安楽確保の技術】においては、〈冷罨法〉の〈凍傷予防〉の小項目は、〈氷枕〉、〈氷頸〉、〈氷嚢〉の留意点として考えることとし省いた。

4) 【救急蘇生技術】

【救急蘇生技術】においては、AHA(アメリカ心臓協会)の2015年のガイドラインでは、人工呼吸用のバッグマスク器具を一次的救急処置に含めていることに伴い、次の変更を行った。アンビューバッグは近年バッグバルブマスクが標準的な名称であり、それに合わせて、〈一次的救命処置: BLS(Basic Life Support)〉の〈B:breathing(対口・対鼻人工呼吸法)〉を〈B:breathing(バッグバルブマスク)〉に変更し、〈二次的救命処置: ACLS(Advanced Cardiac Life Support)〉の〈B:breathing(アンビューバック・人工呼吸器)〉を〈B:breathing(人工呼吸器)〉に変更した。

3. 担当領域の区分である、講義・演習・実習のどこで教授するかの検討

2018年9月に全体会議で全専門領域に依頼し、各看護技術項目を講義・演習・実習のどこで教授するか、不要なものはないか、各専門領域で検討してもらい、12月末日までに技術検討委員会に報告してもらった。学生が看護実践能力を養うために必要な看護技術を再検討し、漏れがないかを確認する作業を行った。看護技術項目の各専門領域で講義・演習・実習においてすべて主に教授する内容の追加または削除になった項目は、次のようであった。

1) 基礎看護学領域

基礎看護学領域では、追加された看護技術項目

は、〈リラクゼーション(指圧)〉、〈補完・代替療法〉の2項目であった。削除された看護技術項目は、〈ストーマ造設患者のケア〉、〈歩行介助〉、〈杖歩行介助(松葉杖)〉・〈杖歩行介助(ステッキ)〉、〈歩行器介助〉、〈口腔ケア(意識状態が不良な患者(児))〉、〈口腔ケア(嚥下困難がある患者(児))〉、〈口腔ケア(気管切開や挿管している患者(児))〉、〈口腔ケア(義歯の手入れ)〉、〈冷罨法(特殊な冷罨法)〉、〈体位ドレナージ〉、〈スクイーピング〉、〈褥瘡予防ケア〉、〈中心静脈内注射の管理〉、〈薬品管理(血液製剤)〉、〈薬品管理(特殊薬)〉、〈無菌室(クリーンルーム)の清潔操作〉、〈隔離〉、〈入院にあたっての患者・家族への対応〉、〈入院時オリエンテーション〉、〈死を迎える人への援助〉、〈臨終を迎える人の家族への援助〉、〈死後の遺体への対応〉の23項目であった。

2) 成人看護学領域

成人看護学領域では、追加された看護技術項目は、〈療養生活環境調整(温度・湿度・換気・採光・臭気・騒音)〉、〈療養生活環境調整(安全性)〉、〈療養生活環境調整(快適性)〉、〈ベッドメイキング(一般のベッド(児))〉、〈モニタ装着中の患者(児)の観察(心電図モニタ)〉、〈モニタ装着中の患者(児)の観察(SPO2)〉、〈配膳〉、〈食事介助(嚥下障害がある患者)〉、〈誤嚥予防〉、〈食生活指導(食事の工夫)〉、〈自然排尿・排便援助(トイレ)〉、〈自然排尿・排便援助(身障者トイレ)〉、〈失禁ケア〉、〈膀胱内留置カテーテル〉、〈浣腸〉、〈導尿〉、〈杖歩行介助(松葉杖)〉、〈杖歩行介助(ステッキ)〉、〈歩行器介助〉、〈関節可動域の観察・訓練〉、〈適切な固定(拘束・抑制等)〉、〈シャワー浴介助〉、〈補完・代替療法〉、〈褥瘡予防ケア〉、〈輸血の管理〉、〈抗生物質を投与されている患者の観察〉、〈薬品管理(麻薬)〉、〈薬品管理(劇薬)〉、〈薬品管理(毒薬)〉、〈薬品管理(血液製剤)〉、〈インシデント・アクシデントに関わる対応〉、〈災害に関わる対応〉、〈入院にあたっての患者・家族への対応〉、〈入院時オリエンテーション〉、〈死を迎える人への援助〉、〈臨終を迎える人の家族への援助〉、〈死後の遺体への対応〉、〈精神症状や状態への対処(せん妄)〉の37項目、削除された看護技術項目は、0項目であった。

3) 老年看護学領域

老年看護学領域では、追加された看護技術項目は、〈入浴介助〉、〈シャワー浴介助〉、〈精神症状や状態への対処（せん妄）〉の3項目であった。削除された看護技術項目は、〈腹囲測定〉、〈膀胱内留置カテーテル〉、〈下肢運動（血栓予防）〉、〈神経麻痺の観察と予防〉、〈温罨法（電気毛布・電気アンカ）〉、〈温罨法（特殊な温罨法）〉、〈呼吸訓練（呼気・吸気練習）〉、〈検体の採取と扱い方（採尿・尿検査）〉、〈検体の採取と扱い方（採便・便検査）〉の9項目であった。

4) 精神看護学領域

精神看護学領域では、追加の看護技術項目は、〈誤嚥予防〉、〈水分バランス査定〉、〈食生活支援（栄養指導）〉、〈食生活支援（食事の工夫）〉、〈歩行介助〉、〈移動・移乗の介助（車椅子、ベッド⇄便座、ポータブル便器）〉、〈適切な固定〉、〈入眠・睡眠の援助〉、〈安静の援助〉、〈下肢運動〉、〈神経麻痺の観察と予防〉、〈整容〉、〈寝衣交換など衣生活支援（活動制限がある患者）〉、〈体温調整〉、〈創傷処置〉、〈褥瘡予防ケア〉、〈検査時の援助（血糖測定）〉、〈与薬方法（経口薬）〉、〈与薬方法（筋肉内注射）〉、〈与薬方法（静脈内注射）〉、〈点滴静脈内注射の管理〉、〈薬品管理（水薬・坐薬）〉、〈薬品管理（麻薬）〉、〈薬品管理（劇薬）〉、〈薬品管理（毒薬）〉、〈スタンダードプリコーション〉、〈インシデント・アクシデント〉、〈退院後の生活指導〉、〈在宅での看護・介護指導〉、〈地域における健康問題に対する対応（セルフ・ヘルプグループの育成と支援）〉の30項目であった。削除の看護技術項目は、0項目であった。

5) 小児看護学領域

小児看護学領域では、追加の看護技術項目は、〈呼吸音聴取〉、〈腸蠕動聴取〉、〈検査時の援助（腰椎穿刺）〉、〈検査時の援助（骨髄穿刺）〉、〈腹囲測定〉、〈モニタ装着中の患者（児）の観察（SPO2）〉、〈経管栄養〉、〈安楽の援助〉、〈全身清拭〉、〈陰部ケア〉、〈洗髪（仰臥位）〉の11項目であった。削除の看護技術項目は、〈冷罨法〉、〈検体の採取と扱い方（採血）〉、〈与薬の方法（皮下注射）〉、〈与薬方法（皮内注射）〉、〈与薬方法（筋肉内注射）〉、〈与薬方法（静脈内注射）〉、〈スタンダードプリコーシ

ン〉、〈無菌室の清潔操作〉、〈隔離〉、〈インシデント・アクシデント〉、〈入院にあたっての患者・家族への対応〉、〈入院時オリエンテーション〉、〈退院後の生活指導〉、〈臨終を迎える人の家族への援助〉の14項目であった。

6) 母性看護学領域

母性看護学領域は、変更がなかった。

7) 地域看護学領域

地域看護学領域は、主に教授する看護技術項目は追加、削除とも0項目であった。

8) 在宅看護学領域

在宅看護学領域は、追加する看護技術項目は、〈療養生活環境調整（温度・湿度・換気・採光・臭気・騒音）〉、〈療養生活環境調整（安全性）〉、〈療養生活環境調整（快適性）〉、〈モニタ装着中の患者（児）の観察（SPO2）〉、〈摘便〉、〈オムツ交換〉、〈陰部ケア〉、〈寝衣交換など衣生活支援（ドレーン類が留置されている患者）〉、〈寝衣交換など衣生活支援（活動制限がある患者）〉、〈吸引（口腔内・鼻腔）〉、〈吸引（気管切開口）〉、〈呼吸訓練（複式呼吸）〉、〈呼吸訓練（口すぼめ呼吸）〉、〈体温調整〉、〈創傷処置〉、〈褥瘡予防ケア〉、〈PEGを用いた経腸栄養〉、〈退院後の生活指導〉、〈死を迎える人への援助〉、〈臨終を迎える人の家族への援助〉、〈死後の遺体への対応〉の21項目、削除する看護技術項目は、0項目であった。

4. 主に教授する専門領域がない看護技術項目

12月末日に各専門領域で見直した看護技術項目の表を委員会が取りまとめて、看護技術項目に主に教授する領域がない項目はないか、技術検討委員会で確認した。主に教授する領域がない看護技術項目は、〈抗生物質を投与されている患者の観察〉と〈学童の健康管理〉であった。〈抗生物質を投与されている患者の観察〉は成人看護学領域に、〈学童の健康管理〉は小児看護学領域に主に教授してもらえるか確認した。技術検討委員会で検討を重ねたものを最終的に、教員全体会議で説明しメール添付にて確認してもらった。

IV. 考 察

1. 本学部独自の看護技術項目の再検討

本学は開学当初から、学生の看護実践能力育成に向けた本学部独自の看護技術項目表を作成し、教員の共通認識をはかっている。しかし、開学9年がたち、実習施設や教員の変更もあり、本学部独自の看護技術項目を再検討する必要性が生じた。技術検討委員会として再検討した結果、各専門領域がどの看護技術の修得を考えているのか、漏れがないためにはどの領域で教授すればよいのか、再確認することができた。看護基礎教育の中で標準的に行われていない看護技術については、各領域の教科書を振り返り、最近の学会の動向も含めた看護技術項目にすると共に、教員全員が共有の認識を持つことで、学生の看護実践能力育成に向けた教育の一助となったと考える。

今回の見直しにより、ほとんどの専門領域で学習項目として追加または削除された技術があった。いずれかの専門領域で削除されている項目でも、他の専門領域で学習するようになっており、看護技術項目自体の削除にはほとんど至っていない。唯一、主に教授することがない項目は、《抗生物質を投与されている患者の観察》と《学童の健康管理》の2つであった。《学童の健康管理》は、養護教諭養成課程が完成年度（2015年度）を迎えて終了したことに伴い、2018年度から養護教諭の養成するための科目が減ったためと思われる。本学は現在、卒業生が5期生まで出ており、実習も6期生までを終えている段階で、実習で実施できることが明確になり、それにより講義でおさえおくべきことが追加されてきているところもあると考える。竹見（2014）は、基礎看護学実習で2施設間の比較を行い、看護技術の経験に違いがないか調査している。病院の機能別による排泄援助技術のおむつ交換や活動・休息援助技術の体位変換・安楽な体位、感染防止策援助技術のガウンテクニクに差があった。本学も一専門領域が実習する病院や施設は、一箇所だけでなく複数利用している。そのため、各専門領域は、そのことを踏まえて実習施設の指導者と連携していくことが必要である。

戸田ら（2010）は独自の卒業時看護技術到達度チェックリストを作成し、「具体的技術の内46は、一専門看護領域でしか技術修得ができないこと、

それが全具体的技術の約1/4を占めている」と報告している。しかし、周産期に関連した技術など特定の領域でのみ学べる技術を除くと、本学の技術項目は2専門領域以上で学習する項目が多い。このことから、限られた授業時間内での効率的な学習内容の組み立てや学生の修得評価の実施についても、今後さらなる協議・見直しが必要であると考えられる。

2. 今後の課題

学生の看護実践能力育成に向けた本学部独自の看護技術項目表ができたことで、教員全体の認識につながった。しかし、看護技術項目においても、中項目までの一覧の活用の検討、教員だけでなく学生にも提示する必要があるのではないかなど、今後をどのように技術項目一覧を活用していくのが課題であるとする。また、1つの領域でしか、主に学習しない技術項目もあり、各領域の教員が意識して講義・演習・実習で関わる必要があると思われる。学生の看護実践能力育成を行うためには、学生と教員が表を活用し、評価を行うことで、卒業時到達目標に向けて同じ方向に学修していきると考える。今後も学部での教育方針を考えながら、文部科学省や厚生労働省のカリキュラムを考え、本学独自の教育内容の見直しと充実が図られていくことが望まれる。

文 献

- American Heart Association. (2015) : 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドラインアップデート 2015ハイライト, <http://eccguidelines.heart.org/wp-content/uploads/2015/10/2015-AHA-Guidelines-Highlights-Japanese.pdf>, [検索日2019年7月5日].
- 藤崎郁. (2011) : 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③第15版, 医学書院, 東京.
- 井上美代江, 今井恵, 松永早苗, 他. (2014) : 基礎看護学実習 I, II における看護技術の経験状況と課題, 聖泉看護学研究, 3, 83-91.
- 文部科学省. (2002) : 看護学教育の在り方に関する検討会報告 (大学における看護実践能力育成の充実に向けて).
- 文部科学省. (2010) : 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告.
- 日本看護系大学協議会. (2012) : 平成23年度「大学に

- における医療人養成推進等委託事業・看護系大学の教育の質保障に関する調査研究」報告書.
- 日本看護系大学協議会. (2018):「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時の到達目標」.
- 桶河華代, 川嶋元子. (2017): 訪問看護ステーション実習において学生が体験する看護技術の実態, 聖泉看護学研究, 6, 69-74.
- 桶河華代, 流郷千幸, 上野範子, 他. (2012): 新設看護学部における看護実践能力育成のための看護技術項目の検討, 聖泉看護学研究, 1, 11-27.
- 竹見八代子. (2014): 基礎看護学実習 I における看護技術の経験状況について 実習施設間の比較, インターナショナル Nursing Care Research, 13 (3), 199-205.
- 戸田由美子, 高橋美美, 笠原聡子, 他. (2010): 一看護系大学における「卒業時看護技術到達度チェックリスト」の作成報告, 高知大学看護学会誌, 4 (1), 33-42.